

臼杵への旅

H さん

臼杵へは約20年前にまだ子供が小さかった頃、家族で訪れた記憶があります。雨が降る中、妻と3人の男の子を連れて石仏を見て回り、すごいなと思ったがゆっくり見ることができませんでした。この度、子供も手を離れ、ゆっくりと石仏や臼杵の町を訪れる機会を得ることができました。大阪南港ATCを午後7時55分出港のフェリーさんふらわあ



別府温泉の湯煙がお出迎え

[あいぼり]に乗り込みます。今日は春休みに入って移動する学生も多いせいか満席でした。ツアーの船室はツーリスト(一般にいう2等)で、余裕は全くありません。隣には見ず知らずの男女が寝ている状態でしたが、これもある意味船旅の良さかなと思っています。展望風呂でさっぱりとした後はレストランでバイキングの夕食をとります。すこし食べ過ぎるのはいつものこと。食事中は船内イベントで女性2人組の

すばらしい歌声が聞こえてきます。後は朝までぐっすり寝て朝5時過ぎには洗顔がわりに朝風呂を楽しみ、朝食も船内レストランのバイキングで別府港上陸に備えます。船は定刻出航、着港。疲れもないまま下船し、予約していたレンタカーで一路臼杵駅を目指します。集合10時の30分前には到着し、タクシーの送迎で臼杵石仏まで移動。ドライバーさんも関西に長くおられた感じのいい親切な方でした。

臼杵石仏に到着後、ボランティアガイドの若い女性が同じツアーの女性3人と一緒に案内してくれ、仏教知識に乏しい私たちにも丁寧に説明して頂きました。改めて国宝の臼杵の石仏群を眺めて、その造形の美しさ、保存の良さに感動しました。帰る途中、地元の婦人部の方が開かれているお店で野菜などの安さに感動し、見学者みんなが何かを喜んで買っていました。石仏会館に帰った後は、後藤製菓さんで銘菓臼杵せんべい作り体験をさせてもらい、1枚1枚手塗りの手間暇をかけたせんべい作りのこだわりを感じました。



有名な国宝 臼杵石仏

次はお待ちかね臼杵ふぐの昼食で福わ内さんへと向かいます。お世話になった運転手の方は団塊の世代で関西からこちらへ帰られた時に、地元にあった大きな企業が軒並みに撤退し「人がすごく減った。」と一番に感じたそうです。人口が減少し、市区町村が合併し、交通機関がなくなり、更に人口が減少するといった悪循環に陥っているそうです。



福わ内さんでの豪華なふぐ料理

昼食は福わ内さんでのふぐ料理。料理は、ふぐ刺身、ふぐちり鍋、唐揚げ、皮のキモ和え、ふぐ寿司、雑炊、フルーツに加えて地元ではレースケと呼ばれるクロアナゴの湯引き、珍しさも手伝って、今が旬でフグに負けないぐらい美味でした。レースケは大きいものでは10kgを超えるものもあるそうです。料理も一度に出るのではなく、時間をみはらかって出てきます。お店の方も親切

です。すっかり満腹になり、観光交流プラザまでタクシーで送って頂き、ここでお別れしました。交流プラザを見学後、町歩きを楽しみます。天気もよく穏やかな春らしい陽気の中を二人で巡りました。TVコマーシャルにも登場した有名な二王座の坂道を歩き、うすきの紙雛を見たり、明石原人の発見者で有名な直良信夫博士の生誕地、八町大路のお店をめぐり、味噌こうじアイスを味わったり、サーラ・デ・うすき、稲葉家下屋敷、臼杵城跡などの見学をしながら臼杵駅へと戻りました。実に充実した半日観光でした。その後、レンタカーで別府へ戻り、風情ある竹瓦温泉に到着。少し熱めの温泉に浸かり、疲れをほぐします。数人の若者が高温の湯船に浸かり、我慢大会をやっているようでした。その後は夕食を取り、レンタカーを返却して別府観光港まで送ってもらいました。午後7時35分出港のさんふらわあに乗り込み、出港時のテープ投げに参加して別府との別れを惜しみます。帰りも混雑した船内でしたが、活気があり楽しめました。翌朝も贅沢に朝風呂を楽しみ、定刻の7時35分に大阪南港ATCに着岸、下船し、今回の旅も無事終わりました。船中二泊の弾丸ツアーでしたが、これだけの内容を低価格で楽しめ、夫婦とも大いに満足した旅になりました。もともとゆったりと旅が楽しめる船旅が好きな私たち夫婦です。次回もフェリーでの九州の旅を楽しみたいと考えています。お世話になった臼杵のみなさん、フェリー、さんふらわあトラベルの方々、本当にありがとうございました。



稲葉家下屋敷の庭園から



テープカットで別府観光港を出港



南港ATCについたさんふらわあ